

## 1 単元名 こえに だして よもう

教材名 「くじらぐも」 中川 李枝子

## 2 指導の立場

## (1) 単元で付けたい力

本単元で付けたい力は、場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読むこと（読ア）である。これまで、「おむすびころりん」や「おおきなかぶ」の学習で、リズムに乗って楽しく音読する活動を仕組んできた。児童は、耳から入る音によって言葉の楽しさを感じながら、物語の世界に浸ることができた。そこで、本単元では、場面の様子を豊かに想像し、想像した様子が表れるように工夫して音読することによって、叙述を基に場面の様子を想像する力を身に付けさせたい。音読しながら、語のまとまりや文章のリズムを感じて、場面の様子を想像したり、想像した様子が表れるように、どの言葉をどのように音読するか工夫したりすることは、1年生の児童が叙述を基に場面の様子を想像する力を付けるのに適している。

## (2) 単元・題材について

本題材は、空に現れたくじらぐもと1年生の子ども達との交流を描いたファンタジーの物語である。自分達と同じ1年生が、大空を舞台にして活躍する内容は、共感しながら大いに楽しんで読むことができるだろう。また、この物語は、繰り返しの表現や日常語による会話文が多く用いられているので、声に出して読む楽しさや、みんなで声を合やす気持ちよさを感じ取ることができる。児童は、くじらぐもや子ども達になりきってリズムカルな会話文をやり取りするうちに、くじらぐもとなかよくなりたいたい、一緒に旅を楽しみたいという思いをもつだろう。その思いを生かして、想像した場面の様子が表れるように、グループで工夫を凝らして音読劇をする活動に主体的に取り組むことができると考えている。

## (3) 言語活動とその特徴

本単元では、音読劇を主な言語活動として行う。児童は、役割に分かれて音読することが好きである。身近な上級生である2年生に、学習の出口として自分達で作った音読劇を発表する活動を位置付けることで、意欲的に学習することができると思った。音読劇をする時、演技手は登場人物の様子が聞き手によく伝わるようにするために、登場人物が、どこで、誰に向かって、どのような状況で言っているかを考えなくてはならない。声の大きさ、せりふの速さ、間合い、動作などの工夫をしなければならぬ。ここに、場面の様子を読み取り、それを音読に生かす必然性生まれる。1年生の児童にとって、場面の様子を想像することと、それを生かして音読の工夫をすることが、音読劇を作り上げるといった目的のもと、自然に結びつくようにするために、場面の様子を想像して吹き出しに書いた内容を、音読劇をする時に付け足しのセリフとして、どこに入れてどのように音読するとよいかを考えさせるようにしていきたい。

【読むこと領域の単元と言語活動の計画】

<p>1学期</p> <p>はなのみち おむすびころりん</p> <p>おおきなかぶ</p>	<p>【単元のねらい】文章のリズムを考えながら音読する。絵や文章から場面の様子を想像したり、声に出して読んだりすることを楽しむことができる。</p> <p>場面の様子を想像しながら読んで昔話を楽しみ、声に出して読んで言葉の響きやリズムを楽しむことができる。</p> <p>声に出して読んだり場面の様子を想像したりして、繰り返しながら高まっていくお話の展開や言葉のリズムを楽しむことができる。</p>	<p>【言語活動計画】</p> <p>音読（学級）</p> <p>音読（学級、役割読み）</p> <p>音読（グループ 役割読み）</p>
<p>2学期</p> <p>ゆうやけ</p> <p>くじらぐも</p>	<p>【単元のねらい】想像を広げながら読んだり音読したりする。登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読むことができる。</p> <p>場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読むことができる。</p>	<p>音読劇（グループ）</p> <p>音読劇（グループ）</p>
<p>3学期</p> <p>たぬきの糸車</p> <p>だってだつてのおばあさん</p>	<p>【単元のねらい】想像を広げながら読んだり音読したりする。場面の様子を想像したり声に出して読んだりして、お話を楽しむことができる。また、本文にない言葉を考へて絵に合うように書くことができる。</p> <p>登場人物の行動を中心に想像を広げながら楽しく読むことができる。また、好きな言葉や文を書き抜くことができる。</p>	<p>音読とペープサート劇（グループ）</p> <p>音読と感想画（個人）</p>

3 研究にかかわって

研究内容1 教材と向き合い、既習事項と比較し、自分の考えをもつことができたか。

(1) 導入時に児童の意欲を引き出し、単元・単位時間の見通しをもたせるための工夫

児童は、これまで一斉読み、役割読み、動作を付けて読むなど、多様な音読に楽しく取り組んできた。そこで、単元を貫く課題を「『くじらぐも』のおんどくげきをしよう。」とした。1年2組の子ども達やくじらぐもになりきって音読劇をするという言語活動を単元の出口とすることで、物語の世界に浸りながら、「ここをどうやって音読すると、くじらぐもの」という気持ちが2年生に伝わるかな。」などと、読みと音読を結び付けて考えることができると考えた。本時の場面では、子ども達とくじらぐもがいよいよ一緒に空を旅するクライマックスであることを押さえ、登場人物の楽しさやうれしさ、気持ちよさが表れるような音読劇をしようという意欲を高められるようにしたい。

(2) 個の考えをもたせるための課題設定や、考えをつくるための視点を与える工夫

音読することによって、会話文など、場面の様子が分かる言葉を本文から見つけやすくする。繰り返しの言葉は、繰り返しがあるのとないのとで読み比べ、どんな違いがあるかと問い、場面の様子を想像しやすくする。また、本文にない内容を想像させるために、挿絵を示して「くじらぐもに乗っている子どもたちはどんな話をしているかな、くじらぐもはどんなことを言っているかな。」などと問い、文章と挿絵を対応させて想像することができるようにする。想像したことをワークシートの吹き出しに書き、セリフとして付け足して音読してみる。どのように読むとよいかも考える。このような活動により、児童は場面の様子をより深く想像していくことができると考えている。

研究内容2 仲間と共に考えを練り合い、自分の考えを高めることができたか。

(1) 展開時の交流において自分の考えを広げたり、深めたりできるような形態、交流の工夫

全体交流では、随時、部分音読や役割音読、動作化などを取り入れ、言葉の響きや音読する時のリズムなどを感じ取って、場面の様子をより深く想像することができるようにしたい。全体で交流したことを生かして音読練習する時は、グループ交流を行う。自分が音読したい部分を選んで音読し、聞き手は感想を述べる。読み手は、場面の様子がよく伝えるために、どの言葉を選んで、どんなふうに音読するか考える。聞き手も、自分との言葉の選び方や音読の仕方の相違点を見つけながら、読み手の音読のよさや改善点を伝えることができるようにしたい。相手に様子が伝わったか、互いの音読を評価し合うことで、児童は音読劇の楽しさを感じ、場面の様子をもっと音読で表そうという意識を高めていけると考えている。

研究内容3 学習内容を確実に理解し、自分の考えを深めることができたか。

(1) 終末時に、自分の考えの変容を振り返り、学びを実感するためのまとめ方の工夫

吹き出しが書けたか、子どもたちやくじらくもになりきって音読できたか、仲間の音読のよいところや直すところを見つめることができたかの観点で自己評価する。その場合、なりきって音読するとは、言葉を根拠にして、場面の様子にあった登場人物の様子が表れるように音読することであることを押さえておく。

#### 4 単元指導計画(全8時間)

次	時	ねらい	学習活動	評価規準
1 (1)	1	教科書の全文を通読して、挿絵を参考に場面の順番を知り、初発の感想を話すことができる。	<p>範読を聞き、挿絵と対応させて、あらすじを捉える。(場面の小見出し付け)</p> <p><b>くじらくもワールドへ出かけよう。</b></p> <p>初発の感想を書く。 感想を交流する。 学習のめあて(単元を貫く課題)を設定する。</p>	<p>教師が出した場面絵を使った「あらすじクイズ」を考えることで、物語のあらすじを知り、おもしろい場面を見つけて話している。</p>
<p>(単元を貫く課題) <b>「くじらくも」のおんどくげきををしよう。 言(1ねん2くみの子どもたちやくじらくもになりきっておんどくげきをしよう。)</b></p>				
2 (5)	2	助詞「～が」や「～も」に着目して、くじらくもが子ども達をしていることを真似して楽しんでいることに気づき、「がっこうがすきなんだね。」と言いながら、くじらくもを好きになっていく子ども達の様子を想像し、それが表れるように音読することができる。	<p>P.4～P.6 L.6(1場面)を音読する。</p> <p><b>いっしょにたいそうをしている子どもたちとくじらくもになりきっておんどくしよう。</b></p> <p>「が」と「も」に着目して、子どもたちとくじらくもの様子を想像して吹き出しに書き、それが分かるように工夫して音読する。 全体交流し、子ども達やくじらくもの様子を読み深め、音読の工夫につなげる。 グループでまとめの音読をする。 本時の自己評価をする。</p>	<p>「～が」や「～も」の助詞や「あのくじらくは、きっこうがすきなんだね。」の会話文から、くじらくもが学校を好きだからやってきて真似していることや、それを見て楽しくなりくじらくもに近づきたいと思う子ども達の様子を想像し、それが表れるように音読している。</p>

3	<p>子ども達とくじらぐもの呼びかけ合いの会話文や「よききた。」「はりきりました。」に着目して、お互いに仲良くなりたいという気持ちになりくじらぐもを好きになっていく子ども達の様子を想像し、それが表れるように音読することができる。</p>	<p>P.6 L.7 ~ P.7 (2場面)を音読する。  <b>ささいあっている子どもたちとくじらぐもになりきっておんどくしよう。</b>          子ども達とくじらぐものは、どんなことを思っ          て互いに誘い合っているかを想像して吹き          出しに書き、それが分かるように工夫して音          読する。          全体交流し、子ども達やくじらぐもの様子を          読み深め、音読の工夫につなげる。          グループでまとめの音読をする。          本時の自己評価をする。</p>	<p>「ここへおいでよう。」や          「よききた。くものくじらに          とびのろう。」の会話文から、          お互いに仲よくなりたいと          いう気持ちで呼びかけ合っ          て、とびのる決心をする子ど          も達の様子を想像し、それ          が表れるように音読して          いる。</p>
4	<p>「天までとどけ、一、二、三。」や「もつとたかく。もつとたかく。」の会話文に着目して、くじらぐもにとび乗ろうとする子ども達と、それを応援するくじらぐもの様子を想像し、それが表れるように音読することができる。</p>	<p>P.8 ~ P.9 (3場面)を音読する。  <b>くじらぐもにとびのろうとする子どもたちと、おうえんするくじらぐもになりきっておんどくしよう。</b>          とび乗ろうと張り切る子どもたちと応援す          るくじらぐもの様子を想像して吹き出しに          書き、それが分かるように工夫して音読す          る。          全体交流し、子ども達やくじらぐもの様子を          読み深め、音読の工夫につなげる。          グループでまとめの音読をする。          本時の自己評価をする。</p>	<p>「天までとどけ、一、二、三。」や「もつとたかく。もつとたかく。」の会話文から、くじらぐもにとび乗ろうとがんばる子ども達と、それを応援するくじらぐもの様子を想像し、それが表れるように音読している。</p>
5	<p>本時</p>		
6	<p>「おや、もうおひるだ。」「では、かえろう。」「さようなら。」の会話文や「また、げんきよく」の言葉に着目して、時間を忘れて空の旅を楽しむくじらぐもや子ども達の満足した様子を想像し、それが表れるように音読することができる。</p>	<p>P.12 ~ P.13 (5場面)を音読する。  <b>さよならをするときの子どもたちとくじらぐものになりきっておんどくしよう。</b>          別れる時のくじらぐもと子どもたちの様子          を想像して吹き出しに書き、それが分かるよ          うに工夫して音読する。          全体交流し、子ども達やくじらぐもの様子を          読み深め、音読の工夫につなげる。          グループでまとめの音読をする。          本時の自己評価をする。</p>	<p>「おや、もうおひるだ。」「では、かえろう。」「さようなら。」の会話文や「また、げんきよく」の言葉から 時間を忘れて空の旅を楽しむくじらぐもと子ども達の満足した様子を想像し、それが表れるように音読している。</p>
3 (2)	<p>7 読み取ったことを生かして、場面の様子がよく表れるように工夫して音読劇の練習をすることができる。</p>	<p>音読劇グループでどの場面を読むか選ぶ。  <b>子どもたちやくじらぐもになりきっておんどくげきをしよう。</b>          音読劇グループで役割分担をする。          音読劇グループで練習する。          他のグループと聞きあい、よさや改善点を伝え合う。          本時の自己評価をする。</p>	<p>場面の様子が伝わるように、声の出し方や動作などを工夫して音読劇をしている。</p>
8	<p>8 読み取ったことを生かして、音読劇発表会をし、仲間の音読のよさを見付けることができる。</p>	<p>課題を確認する。  <b>子どもたちやくじらぐもになりきっておんどくげきはっぴょうかいをしよう。</b>          音読劇グループごとに音読劇を発表する。          仲間の音読のよさを交流する。          本時の自己評価をする。</p>	<p>場面の様子が伝わるように、声の出し方や動作などを工夫して音読劇をしている。</p>

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

「さあ、およぐぞ。」の会話文や「青い青い」「どこまでもどこまでも」の繰り返しの言葉に着目して、くじらぐもに乗って旅をする子ども達が喜んだり驚いたりする様子を想像し、それが表れるように音読することができる。

(2) 本時の展開(5/8)

	学習活動	対話を引き出す手立て
導入	<p>1. 前時の場面を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3回目の「天までとどけ、一、二、三。」は「絶対乗ってやるぞ!」と子どもたちががんばっている様子で、段々声を大きく読んだよ。</li> </ul>	<p>本時の場面は、いよいよ一緒に空を旅する場面であることを押さえ、いい音読劇を作り上げたいという意欲を高める。 (教材との対話)</p> <p>「さあ」は、どんな時に使うかと問い、はりきっているくじらぐもの様子を想像しやすくする。「青い 青い」等の繰り返しの言葉は、繰り返しが無い場合と比べてどんな違いがあるかと問い、場面の様子を想像しやすくする。 (自分との対話)</p> <p>部分音読や動作化を取り入れ、どのように音読するとよいかを本文の言葉や挿絵、想像した様子と関連づけて考えることができるようにする。 (仲間との対話)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>評価規準</b></p> <p>「さあ。およぐぞ。」の会話文や「青い青い」「どこまでもどこまでも」の繰り返しの言葉から、はりきるくじらぐもと喜んでる子ども達の様子を想像し、それが表れるように音読している。</p> </div>
展開	<p>2. 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>空をたびする子どもたちとくじらぐもになりきっておんどくしよう。</p> </div>	
	<p>3. P.10～P.11(4場面)を一斉音読する。</p>	
	<p>4. はりきって進んでいくくじらぐもや喜ぶ子ども達の様子を、挿絵や本文の言葉で確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ くじらぐもは、「さあ、およぐぞ。」と言っているよ。</li> <li>・ 「青い」「どこまでも」が繰り返されている。</li> </ul>	
	<p>5. くじらぐもに乗っている子どもたちはどんな話をしたか、くじらぐもはどんなことを言ったか想像して吹き出しに書き、それが分かるように工夫して音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空は青くて、気持ちがいいなあ。ずっと乗っていたいな。</li> <li>・ 「海や村や町が見えて、楽しいな。」というせりふを入れたいな。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「さあ。」と言って、くじらぐもはりきっているね。</li> <li>・ くじらぐもは、子どもたちが乗ってくれてうれしいから、元気いっぱい進んでいったんだね。うれしそうに読みたいな。</li> </ul>	
	<p>6. 全体交流し、子ども達やくじらぐもの楽しい様子を読み深め、音読の工夫につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「さあ」を強く読むと、くじらぐもがはりきっている感じがするよ。</li> <li>・ 子ども達は景色を見ているから、下をのぞいている格好をしているよ。</li> <li>・ 「<input type="text"/>が見えるよ。」とうれしそうに大きな声で言うといいね。</li> <li>・ 「青い青い」はゆっくり読むと、気持ちいいなという感じが分かるね。</li> </ul>	
<p>7. 子どもたちやくじらぐもの嬉しい気持ちや楽しそうな様子が表れるように、グループでまとめの音読をし、相互評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「さあ」というところを、くじらぐもが子どもたちを乗せて、とてもうれしいから、はりきった感じで読みます。</li> <li>・ 「どこまでも どこまでも」のところを、くじらぐもに乗れてうれしいなあという気持ちがわかるように、ゆっくり読みます。</li> <li>・ <input type="text"/>さんの「さあ」は、もっと大きな声で読んだ方が、くじらぐものうれしそうな感じが分かると思うよ。</li> </ul>		
終末	<p>8. 本時の自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吹き出しが書けたか、ペアの子に子どもたちやくじらぐもになりきって音読できたか、仲間の音読のよいところを見つけることができたかという観点で自己評価をする。</li> </ul>	<p>役になりきって音読している姿を認める。 (自分との対話)</p>